

母の会 5周年記念イベント

2019年 10月6日【日】開催決定！

場所：オルガホール岡山
時間：10時～16時
講師：本多正明先生



【本多正明先生】

■ご略歴

昭和45年 大阪歯科大学卒業
昭和48年 日本歯学センター勤務
昭和53年 日本歯学センター退職
昭和53年 東大阪市にて本多歯科医院開設
昭和47年より平成15年
Dr. Raymond Kim
(南カリフォルニア大学)に師事

S. J. C. D. インターナショナル 副会長

大阪 S. J. C. D. 最高顧問

日本顎咬合学会 指導医

日本臨床歯周病学会 指導医

O. J. ファウンダー

日本補綴学会 会員

日本顎口腔機能学会 会員

朝日大学歯学部 非常勤講師

■主な書籍

臨床歯周補綴Ⅰ（第一歯科出版）1990

臨床歯周補綴Ⅱ マニュアル&クリニック

（第一歯科出版）1992

咬合採得（株式会社ヒョーロン）2009

「欠損歯列」の読み方、「欠損補綴」の設計
（クインテッセンス出版株式会社）2013

第5回 母の会イベントテーマ

「チームアプローチ～これからの歯科衛生士の役割～」

本多正明先生よりメッセージ

今日までの歯科衛生士が、臨床の場で実践してきたことは、炎症（う蝕・歯周病）のコントロールを幹とした治療であり予防である。しかし“Longevity”を得るためには、それだけで良いのだろうか。今日、よく聞く言葉に“力のコントロール”がある。この意味合いは、良好に機能を果たせるようにコントロールすることである。歯科衛生士が機能（生理的）というものを理解するためには、咬合の知識を持つておく必要がある。ここでいう咬合とは、歯科医や歯科技工士が必要としている下顎運動や咬合面形態などではなく、機能回復に際し最も重要である咬頭嵌合位の安定に欠かせない咬合支持について、歯科衛生士もその重要性を知っておく必要がある。実際には歯の喪失、すなわち咬合支持の減少・喪失から欠損歯列の状態を読み取ることに同時に、欠損補綴のリスクを知っておくことが大切である。またメンテナンス時においては、綿密に再評価を行い、現状を担当医へ詳細に伝えることが歯科衛生士としての重要な役割となる。

下記アドレス or QR コードから参加申し込みフォームに 必要事項を入力し送信してください。その後、こちらから 送信する「参加受付完了」メールの着信をもって参加 申込みの受付完了とさせていただきます。参加への申込みフォームは、

こちら



<https://pro.form-mailer.jp/fms/f8b3bb13136308>



10:00～12:00 午前の部 発表4名の歯科衛生士

- ①「歯周基本治療によって改善した限局型慢性歯周炎11年経過症例」
(株) DH Pro. School 山崎瑞穂
- ②「末期腎不全と2型糖尿病を有する重度歯周炎患者の歯周治療における歯科衛生士の関わり」
医療法人 QOL ファミール歯科 中野浩子
- ③「高齢者施設における歯科衛生士の役割」 国立療養所 邑久光明園 歯科衛生士 石原彰子
- ④「SPT 中に認知症を発症された患者の一例」
～フレイル期に対して歯科衛生士として何が出来るか～ はら歯科医院 小林梨江

